

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
TeeKianHeng・高嶋裕一		takasima@iwate-pu.ac.jp	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
平井 勇介		岩手県立大学 総合政策学部 総合政策学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
経営・経済調査実習	IWKa-161001-0	10人	

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

社会調査のうち、とりわけ経営・経済的な関心に沿ったテーマを設定し、調査企画コンペを繰り返しつつ、調査計画案を固めた。この過程ですべての学生が主体的に行動することにより、調査活動の全容を体感的に理解した。

## II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

友人へのプレゼントの選び方：経営・経済現象に関わるテーマで3チームによる企画コンペを実施した（調査の社会的意義と調査の実行可能性から評価。審査員は教員2名及び受講者）。優秀企画である「友人へのプレゼントの選び方」を実施テーマとして選定した。

2. 調査の内容／概要：

学生の友人へのプレゼント贈答の実態とプレゼントの選定基準を明らかにするもの。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

岩手県立大学の看護学部、社会福祉学部、ソフトウェア情報学部、総合政策学部の1年次～3年次の学生を対象として、それぞれの学部の必修科目または履修者の多い選択科目の授業時間内で調査を行った。

4. 主な調査項目：

（プレゼントを贈る立場：同性の友人/異性の友人）プレゼント有無・頻度、予算上限、プレゼント選定方法、プレゼントの種類、プレゼント選定基準、（プレゼントをもらう立場）もらってうれしいプレゼント種類、等。

## III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

調査実施は10名を5チームに組みなおし調査対象科目2コマずつ担当させた。対象科目の授業終了時に、調査員の学生が質問紙を配布し、その場で回収した。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2016年12月～2017年1月・岩手県立大学・10人

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

有効回収票数は783であった。

## IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

学生の統計学の現有知識の水準を踏まえ、本学部においてD科目認定を受けている「統計学II」の範囲で、比率の差の検定や、カイ自乗検定などの手法を主に用いた。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

1) 同性の友人へのプレゼント有無について、同性間ではおよそ90%が、異性間ではおよそ56%が最近の3年間でプレゼントを贈ったと答えている。プレゼント有無について、同性に対しては、女性の方がプレゼントを贈る割合が高い。しかし、異性に対しては男女ともほとんど変わらない。2) プレゼント購入場所については、同性・異性を問わず「店頭」が圧倒的に多く、「インターネット」を大きく引き離している。3) 1回あたりの予算上限については、同性の場合よりも異性の場合の方が高額となっている。

10. 報告書刊行の予定と概要：

岩手県立大学総合政策学会Working Paper Series No.120として刊行した。